

様式第二号の十四(第八条の十七の三関係)

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和 5 年 6 月 23 日

富山市長  
藤井 裕久 殿

提出者  
住 所 富山県富山市日俣3番地  
氏 名 金剛化学株式会社  
代表取締役社長 金森 俊樹  
(法人にあつては、名称及び代表者氏名)  
電話番号 076-423-3131

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第11項の規定に基づき、令和4年度の特別管理産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

事業場の名称	金剛化学株式会社
事業場の所在地	富山県富山市日俣3番地
事業の種類	医薬品原薬製造業
特別管理産業廃棄物処理計画における計画期間	令和4年4月1日から令和5年3月31日

特別管理産業廃棄物処理計画における目標値

項目	目標値	項目	目標値
排出量	1,820.1 t	全処理委託量	1,820.1 t
自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	優良認定処理業者への処理委託量	1,820.1 t
自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	再生利用業者への処理委託量	1,250 t
自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	0 t	認定熱回収業者への処理委託量	250 t
自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t

電子情報処理組織の使用に関する事項

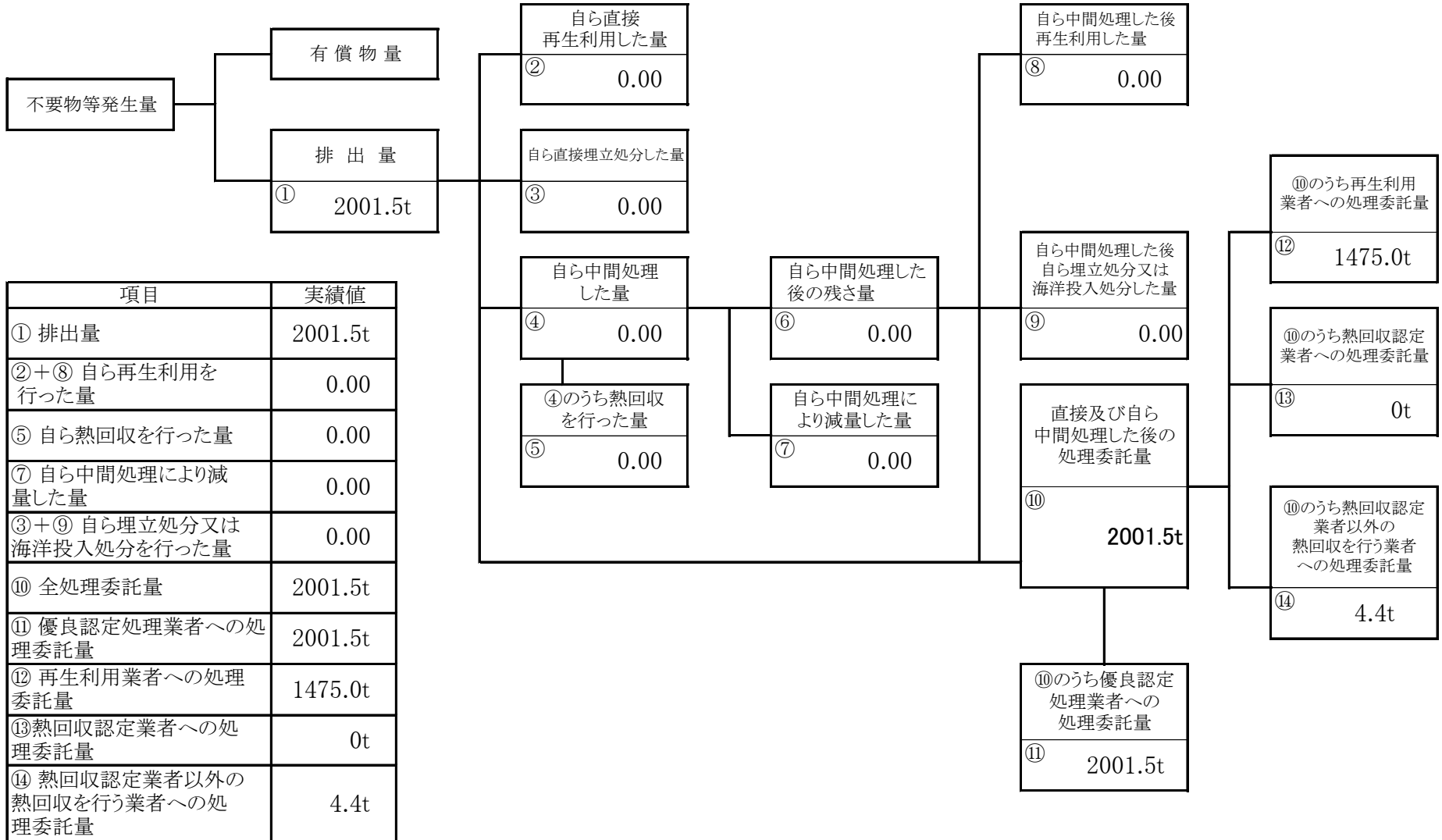
特別管理産業廃棄物排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	前々年度	1,554 t
	前年度	1,712 t
(電子情報処理組織の使用に関して実施した取組)		
特になし		

※事務処理欄

(日本産業規格 A列4番)

計画の実施状況

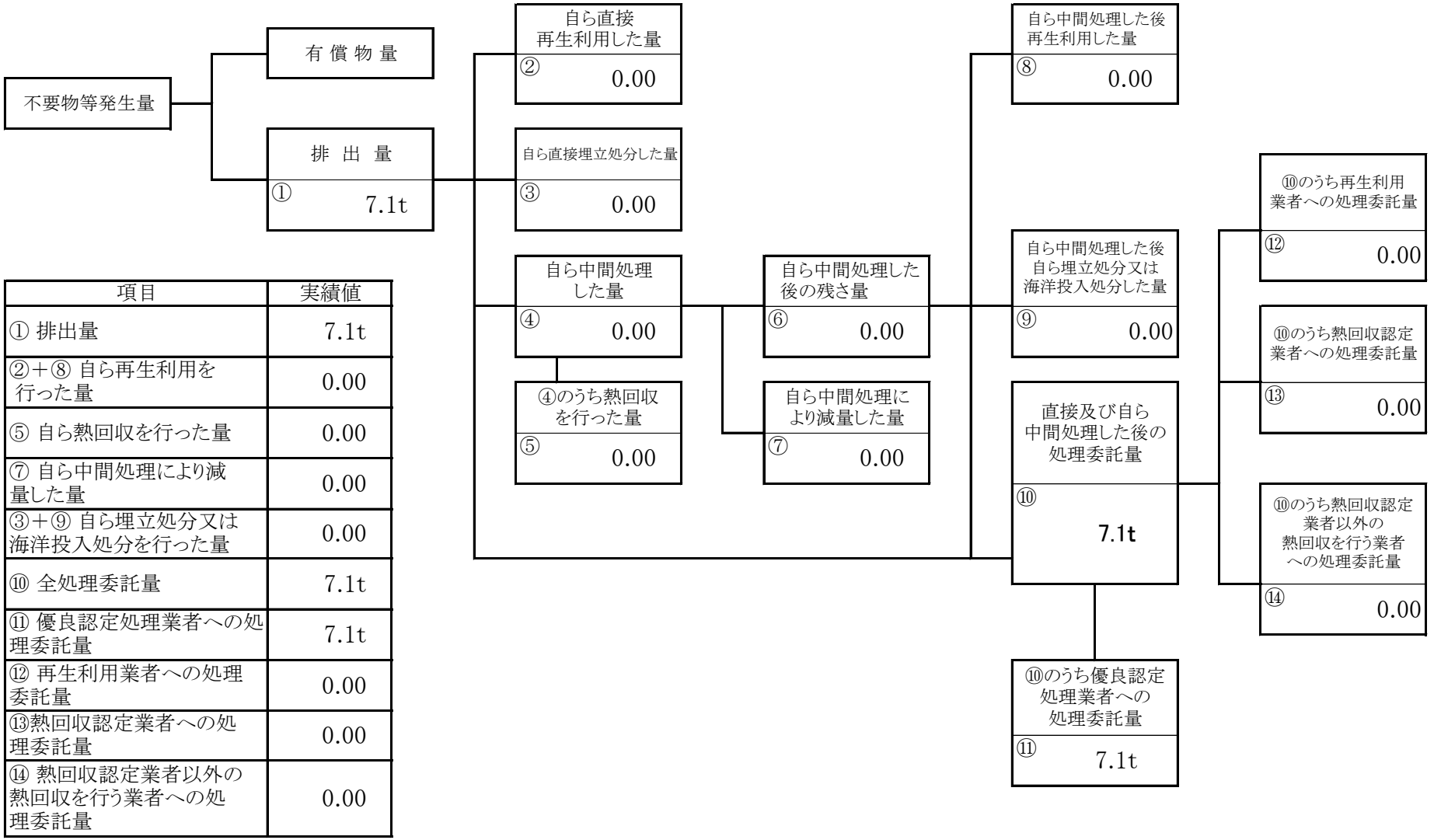
(特別管理産業廃棄物の種類： 引火性廃油 )



項目	実績値
① 排出量	2001.5t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.00
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.00
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.00
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.00
⑩ 全処理委託量	2001.5t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	2001.5t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	1475.0t
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	0t
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	4.4t

計画の実施状況

(特別管理産業廃棄物の種類： 腐食性廃酸 )



項目	実績値
① 排出量	7.1t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.00
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.00
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.00
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.00
⑩ 全処理委託量	7.1t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	7.1t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.00
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	0.00
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.00

計画の実施状況

(特別管理産業廃棄物の種類： 腐食性廃アルカリ )

不要物等発生量

有償物量

排出量

① 965kg

自ら直接  
再生利用した量

② 0.00

自ら直接埋立処分した量

③ 0.00

自ら中間処理  
した量

④ 0.00

④のうち熱回収  
を行った量

⑤ 0.00

自ら中間処理した  
後の残さ量

⑥ 0.00

自ら中間処理に  
より減量した量

⑦ 0.00

自ら中間処理した後  
再生利用した量

⑧ 0.00

自ら中間処理した後  
自ら埋立処分又は  
海洋投入処分した量

⑨ 0.00

直接及び自ら  
中間処理した後の  
処理委託量

⑩ 965kg

⑩のうち優良認定  
処理業者への  
処理委託量

⑪ 965kg

⑩のうち再生利用  
業者への処理委託量

⑫ 0.00

⑩のうち熱回収認定  
業者への処理委託量

⑬ 0.00

⑩のうち熱回収認定  
業者以外の  
熱回収を行う業者  
への処理委託量

⑭ 0.00

項目	実績値
① 排出量	965kg
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.00
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.00
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.00
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.00
⑩ 全処理委託量	965kg
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	965kg
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.00
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	0.00
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.00

計画の実施状況

(特別管理産業廃棄物の種類： 有害廃酸(金属を含むもの))

不要物等発生量

有償物量

排出量

① 36.1kg

自ら直接  
再生利用した量

② 0.00

自ら直接埋立処分した量

③ 0.00

自ら中間処理  
した量

④ 0.00

④のうち熱回収  
を行った量

⑤ 0.00

自ら中間処理した  
後の残さ量

⑥ 0.00

自ら中間処理に  
より減量した量

⑦ 0.00

自ら中間処理した後  
再生利用した量

⑧ 0.00

自ら中間処理した後  
自ら埋立処分又は  
海洋投入処分した量

⑨ 0.00

直接及び自ら  
中間処理した後の  
処理委託量

⑩ 36.1kg

⑩のうち優良認定  
処理業者への  
処理委託量

⑪ 36.1kg

⑩のうち再生利用  
業者への処理委託量

⑫ 0.00

⑩のうち熱回収認定  
業者への処理委託量

⑬ 0.00

⑩のうち熱回収認定  
業者以外の  
熱回収を行う業者  
への処理委託量

⑭ 0.00

項目	実績値
① 排出量	36.1kg
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.00
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.00
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.00
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.00
⑩ 全処理委託量	36.1kg
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	36.1kg
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.00
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	0.00
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.00

(様式第2号の14)特別管理産業廃棄物処理計画実施状況報告書 第2面(一覧)

別添  
単位:トン/年

廃棄物の種類	排出量の目標値	計画の実施状況													
		①排出量	②自ら直接再生利用した量	③自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量	④自ら中間処理した量	⑤自己中間処理のうち熱回収を行った量	⑥自ら中間処理した後の残さ量	⑦自ら中間処理により減量した量	⑧自ら中間処理した後再生利用した量	⑨自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量	⑩直接及び自ら中間処理した後の処理委託量	⑪⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量	⑫⑩のうち再生利用業者への委託量	⑬⑩のうち熱回収認定業者への処理委託量	⑭⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量
廃油		2,002	0	0	0	0	0	0	0	0	2,002	2,002	1,475	0	4.4
廃酸		7.1	0	0	0	0	0	0	0	0	7.1	7.1	0	0	0
廃アルカリ		1.0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
感染性廃棄物		0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定有害廃棄物	廃PCB等	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	PCB汚染物	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	PCB処理物	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	指定下水汚泥	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鉱さい	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	廃石棉等	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燃え殻	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ばいじん	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	廃油(金属を含むもの)	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	汚泥(金属を含むもの)	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	廃酸(金属を含むもの)	0.04	0	0	0	0	0	0	0	0	0.04	0.04	0	0	0
	廃アルカリ(金属を含むもの)	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	廃水銀等	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		2,010	0	0	0	0	0	0	0	0	2,010	2,010	1,475	0

注1 特別管理産業廃棄物排出量の目標値 : 様式第2号の14の第1面にて実施状況報告のなされた、「特別管理産業廃棄物排出量の目標値」について集計し記入する。なお値は計のみを入力する。

注2 計画の実施状況 : 様式第2号の14の第2面にて実施状況報告のなされた、「計画の実施状況」①～⑭の量について集計し記入する。

注3 廃棄物の種類 : 分類できない記述が報告書にある場合に限り、空欄に報告書に表示された種類を記入する。

備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「特別管理産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、特別管理産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の特別管理産業廃棄物の処理に関して、①～⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入すること。
  - (1) ①欄 当該事業場において生じた特別管理産業廃棄物の量
  - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
  - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分した量
  - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした特別管理産業廃棄物の当該中間処理前の量
  - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
  - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
  - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
  - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
  - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
  - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
  - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令(以下「令」という。)第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
  - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
  - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
  - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、特別管理産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 特別管理産業廃棄物の種類が2以上あるときは、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により特別管理産業実績値を廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前々年度及び前年度における特別管理産業廃棄物の排出量(ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条の4第5号イからハマまでに掲げるものをいう。)を除く。)並びに電子情報処理組織使用義務者にあつては前年度に実施した電子情報処理組織の使用に関する取組(情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当したときは、その旨及び理由を含む。)について記入すること。
- 8 ※欄は記入しないこと。